『サラバ!』(西加奈子著)におけるあだ名の 命名方略に関する研究

大野木 裕明

(仁愛大学人間生活学部)

キーワード: 心理的距離、呼称、あだ名

A study how to give nicknames to the characters in "FAREWELL!"

Hiroaki OHNOGI

(Faculty of Human Life, Jin-ai University)

Key Words: psychological distance, nickname

目 的

呼称とりわけあだ名やニックネームは、対人的な親疎関係や上司部下のような社会的な位置関係、あるいはその人が周囲からどのような人物と認知されているのかを示す目印になることがある(大野木, 2005)。

本研究の目的は、一つの文学作品にあらわれた呼称とその理由を分類し、これまでの分類(大野木, 2015)の確認と洗練化をはかることにある。

方 法

対象は直木賞受賞作『サラバ!』(西加奈子著)である。選んだ理由は、あだ名とその理由が多く具体的に記述されていて、心理的距離を遠く感じる父・母・姉と僕との間の複雑な家族関係の変化が、呼称の使い方をういて巧妙に表現されているためである。

結果と考察

1. 抵抗感の生じる呼称

2つの事例が見られた。1つ目に、呼称が、姉と母との間の関係を表現するために使われていた。姉は、幼少期には母のことを「ママ」と呼んでいた。ところが、大きくなってからは、母のことを「あの人」と呼び、直接に母に話しかける時には、「あの」とか「ねえ」と声がけし、決して「お母さん」に類する呼び名は使わなかった。(上巻, p. 14 より)

2つ目に、呼称が、僕と姉との間の関係表現に使われていた。「それで、姉ちゃんは信じてるん?」。言ってから、姉のことを数年ぶり、いや、二十数年ぶりに「姉ちゃん」と言ったことに気づいた。気づいてから、カアッと顔が赤くなった。こんなに自然に言えたことに感動してもいたし、あっさり防御を解いた自分が、恥ずかしくもあった。(下巻, p. 225)

以上、a) 姉が母を「お母さん」と呼ばない・呼べない理由は、心理的な距離が遠く、感情的なわだかまりがあったから。b) 僕は、学校では、くあの姉の弟だ」と周囲から思われるのが嫌だった。それが、二十数年ぶりに「姉ちゃん」と呼べる気持ちになった。つまり、呼称の変化がお互いの心理的距離の反映になっていた。

2. あだ名と理由・根拠

本文中からあだ名と理由を抽出したところ、次のようになった。以下に、具体的に列挙する。

(1) 「ご神木」:

輪郭は、母の可憐なものではなく、父のたくましいそれを引き継いだ。唯一ふたりの長所を継いだのは身長だったが、骨が父に似たのか、ごつごつした筋っほい体型は、のちに「ご神木」とあだ名をつけられるにいたった。(上巻, p. 15)

(2) 「ライアーフォックス」(嘘つき狐)

姉の言うことには、いつも胡散臭さがあつた。そもそも姉は嘘つきだった。人の気を惹くことにかけては命をかけることも辞さない。(上巻, p. 30)

(3) 「ぶす」

頭の足りない男子生徒から。(上巻, p. 87)

(4) 「ガリガリ」

意地悪な女子生徒から。(上巻, p. 87)

(5) 「ソーハッピー」

「初めまして、今橋貴子です、エジプト、カイロから来ました。皆さんに会えて、ソーハッピー。日本は分からないことだらけだけど・・・」というように、気負って、精一杯虚勢を張って、<私を見て!>願望を出したエピソードから。(上巻, p. 267, 269)

(6) 「ご神木」

地中奥深くから伸びた芯に貫かれているかのように、姉はまっすぐ、立っていた。姉は強い木のような木だった。神様をはらんだ、美しい、木のような木だった。(中略) 世界で一番美しい、動ける「ご神木」だった。(下巻, p. 353)

(7) 「ドラえもん」

管理人さん。顔もまんまるで、ドラえもんみたいに見えた。(上巻, p. 120)

(8) 「幽霊」

玉城さん。背の高い女の子だった。色が白く、すうっと切れ目を入れたような目をしていて。髪が腰まであって、(上巻, p. 187)

(9) 「イサク」

姉の夫。アイザックという名前。(下巻, p. 207)

以上について大野木 (2015) の分類と照合した。

「イサク」は「分類2: 名前の変形」に相当していた。

「ぶす」「ガリガリ」は「分類4: 身体的特徴の指摘」に相当していた。

「ご神木 (前半)」「ドラえもん」「幽霊」は「分類5: 身体的特徴の見立て」に相当していた。

「ソーハッピー」は「分類8: 行動特徴・エピソードの指摘」であった。

「ライアーフォックス」と「ご神木 (後半)」は「分類11: 性格的特徴の見立て」による用法であった。

このように、本文中に見られたあだ名と付いた理由・根拠は、すべて大野木(2015)で行った分類の例に含まれていた。新しい分類事例となるものは見いだされなかった。

3. あだ名は同じだが意味が変化したケース

「ご神木」は、身体的特徴が似ている何かに見立てて付けられたあだ名でネガティブな意味があった。それが二十数年後には、姉の体の内面に宿る精神性(性格的特徴)が身体に表現されて「ご神木」に見立てることが適切であるように感じた。ポジティブなあだ名になった。つまり、同じあだ名であるが、付けた根拠が分類5から分類11へと変化した使用例と考えられる。

引用文献

西 加奈子 (2014). サラバ! (上・下巻)、小学館。

大野木 裕明 (2005). 間合い上手、NHKブックス。

大野木 裕明 (2015). 呼称の対人的機能、ナカニシヤ出版。